

## 華族世襲財產法改正法律案特別委員會議事速記錄第四號

大正五年二月九日(水曜日)午前十時二十五分開會

○副委員長(富井政章君) 今朝委員長カラ電話アリマシテ少シ御病氣ノヤウデアリマス、委員會ノ方ハ御相談デ何分ニモ宜シヤウニ取計テ吳レト云フコトアリマス、ソレテ委員長ニ代シテ開會イタシマス、今日ハ小委員會ノ修正案ト云フモノハ出來テ居リマス、其説明ヲ小委員ノ方ヨリ委員會ニナサル順序デアラウト思ヒマス、ドウ云フ風ニ致シタモノアリヤセウカ

○奥田義人君 今日ハ不幸ニシテ徳川委員長が御不快ノ爲ニ御闕席アル御様子、副委員長が代シテ委員長席ニ著カレマシタノアリマスルケレドモ、此修正案ニ付テハ今委員長ノ席ニ居ラマスル富井博士が最モ慎重ニ御考ヘ下サイマシテ、其結果此案が出來ルニ至シテ居リマスルコトアリマスルノア、私ノ希望ヲ致シマスル所ハ臨時委員長ノ席ハ代理デ御處理ニ相成シテ、富井博士ニ修正案ノ大體ニ付ア御説明ヲ請フヤウニ致シタモ思ヒマス、何卒然ルベク手續ヲ請ヒマス

○副委員長(富井政章君) 私ハ奥田君ニ願ヘバ一番宜カラウト思フノデス  
○男爵田健治郎君 ドウカ奥田サンノ御發言ニ賛成イタシマスルカラ、報告ノ間ダケ富井博士ニ願ヒマシテ、其間假リニ委員長代理ヲ其報告ノ間ダケ岡部子爵ニモ御願ヒ致シテ、サウナサルヤウニ願ヒタモ思ヒマス

(「賛成ト呼フ者アリ」)

○副委員長(富井政章君) ソレデハ暫時……

(子爵岡部長職君委員長席ニ著ク)

○委員長代理(子爵岡部長職君) 唯今富井副委員長カラ報告ノ御都合ニ依リマシテ、暫時本員ニ於テ代理ヲ致シマスルヤウニト云フコトデゴザイマス

○富井政章君 ソレデハ僭越ナガラ私ヨリ小委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告イタシマス、本案ノ小委員會ハ昨年ノ暮ヨリ數回開カレマシタガ、案外込入タ法律案アリマシテ、吾ミハ大イニ困難ヲ感ジマシタ、政府提出案ハ現行法ノ全部ニ改正ヲ加ヘテ居マス故ニ、修正案モ自然原案ノ全體ニ及ブコトナシタノアリマス、吾ミ小委員ハ一回マテ修正案ヲ作リマシテ、協議イタシマシタ後、遂ニ今日御手許ニ迴ツタ案ニ纏ツタノアリマス、即チ是が第二回ノ修正案アリマス、此一事ヲ以テモ甚ダ困難ナル議案デアルト云フコトハ御分リニナラウト思ヒマス、是ヨリ修正案ヲ原トシテ、提出案ニ修正ヲ加ヘラレマシタ點竝ニ其理由ヲ申上ゲマス、先づ第一條ニ於テ「有爵者ハ」ノ下ニ「其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ」ト云フ文字ガ加リマシタ、是ハ世襲財產ノ最高限ヲ定ムル趣意ニ出テ修正アリマス、又此委員會ニ於テモ桑田博士其他ノ方ヨリ出タ意見デアリマス、是ハ家ヲ維持スルニ必要ナル限度ヲ越エテ、過多ノ財産ヲ不融通物トナスト云フコトハ國民經濟其他ノ點ヨリ大イニ考フベキコトデアル故ニ、何カ相當ノ制限ヲ置キタ云フ趣旨アリマス、唯如何ニ最高限ヲ定ムベキヤハ甚ダムカシイ問題アリマシテ、

其點ニ於テハ大イニ講究イタシテ見タイノアリマス、最モ確實ナルノ方法ハ、例ヘバ一万圓ト云フ如キ一定額ノ収益ヲ生ズル財產ヲ限度トスルコトアリマス、然シ何程限度トスルト云フコトハ元來家ニ依シテ狀況ヲ異ニスルコトアリマシテ、大キナ家アレバ二万圓、三万圓ノ収益デモ或ハ不十分デアルカモ知レナイ、ソレ故ニ單ニ最高限トシテモ収益ヲ標準トシテ一様ニ定ムルコトハ宜シクナイト考ヘタノアリマス、又斯ノ如クニ數額ヲ標準トシテ極メマス時ハ後ニ至シテ其限度ヲ越エタ、イヤ越エナイト云フコトニ付テ争ヒガ起リマシテ、甚ダ困難ヲ來タス眞レガアリマス、或ハ總財產ノ半分トカ、三分ノ一トカ云フコトニ定ムルノモ一ノ案アリマスルケレドモ、是モ同様ノ不都合ガアルト思ヒマス、ソレ故ニ此種類ノ方法ハ執ラザルコトニ一致シタノアリマス、ソコテ段々講究イタシマシタ結果一つノ抽象的ノ標準ヲ定メテ、其應用ハ主務大臣ニ一任スルノ外ハナイト考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ少シ漠然ハアリマスケレドモ、「其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ」ト云フ文字ヲ第一條ニ加ヘルコトトナツタ次第アリマス、尤モ此制限ハ今後世襲財產ヲ設定スル場合ニノミ適用スベキモノアリマシテ、既ニ現行法ノ規定ニ依リテ設定シタル世襲財產ニ適用ノナキコトハ附則ノ第一項ニ依シテ明カデアリマス、其外世襲財產ノ最小限度ヲ定ムルガ宜イト云フ説モアルヤウデアリマス、現ニ現行法ニハ年額五百圓以上ノ純収益ヲ生ズル財產ニ限ルトナツテ居リマス、此制限ハ政府提出案ハ削除セラレテモアリ、又我ミ小委員ニ於テモ少キニ過グルト云フ方ニハ弊害ガナイト考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ此點ハ原案ニ從シテ何等ノ制限ヲモ設ケナイト云フコトニ決シタノ使シテアリマス、併シ世襲財產ノ増加ト云フコトハ其實質ニ於テ一部ノ設定ニ外ナラヌト考ヘマスル、又各條ニ於テ設定又ハ増加ト書クノハ甚ダ煩ハシイコト思ヒマスル故ニ、第十一條ニ於テ増加ノ場合ヲ一ト纏メニ致シマシテ、設定ニ關スル規定ヲ適用スルコトニ致シタノアリマス、修正案第一條及第二條ハ提出案ノ通リアリマス、第四條モ提出案第五條ト殆ンド同様アリマス、唯第二項が加ハリマシタ、宮内大臣ノ調査ヲ便ニスル爲ニ他ノ財產ノ概況ヲ申出シムルト云フコトハ至極宜シイコト考ヘタノアリマス、第五條ハ原案第三條ニ一大修正ヲ加ヘタ規定アリマス、提出案ニ依レバ未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者ハ世襲財產ヲ設定スルコトヲ得ズトナツテ居リマス、是ハドウモ十分ノ理由ナキコトアリマシテ、是等ノ無能力者ニ對シテモ、世襲財產ヲ設定スル途ヲ塞ガナイガ至當アルト我ミハ考ヘマスノテアリマス、ソレ故ニ法定代理人又ハ保佐人ハ豫メ家政協議員會ノ決議ヲ經テ設定ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ト致シタノデアリマス、ソレノミナラズ未ダ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケザル者ト雖モ、疾病病人ヨリ聞クコトアリマス、又此委員會ニ於テモ桑田博士其他ノ方ヨリ出タ意見デアリマス、是ハ家ヲ維持スルニ必要ナル限度ヲ越エテ、過多ノ財產ヲ不融通物トナスト云フコトハ隨分實際ニアルノアラウ、而シテ先づ以テ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ガナクテハナラヌトシテハ却テ有爵者ヲ無能力者扱ヒニスルヤウナ嫌ヒモアリマシテ、禁治產又ハ準

禁治產ノ宣告ノ申請ヲ獎勵スルヤウナ結果ニナルカト思ヒマス、免モ角斯カル場合ニモ世襲財產ヲ設定スル途ガ無ニト云フコトハ立法ノ目的ヲ貫徹セザルコトアルト考ヘマシテ、其方法ヲ定ムルコトニナツタノデアリマス、家政協議員會ト云フ新イ言葉ヲ設ケマシテ、現行法ニ於ケル如クニ親族會議トシマセナンダ所以ハ、親族以外ノ宗族及ヒ舊臣ノ如キ家ニ縁故アル者ヲ加フベキ場合が多クアルデアラウト考ヘタノデアリマシテ、ソレ故ニ親族會議ト云フ言葉ハドウモ適當テナイト考ヘタ、要スルニ其組織ハ宮内大臣が施行規則ニ定ムルコトトナルノデアリマス、一般ノ能力者ニ付テハ家政協議員會ニ詰ルコトヲ必要ト認メナンダノデアリマス、其理由ハ何人モ一家ノ財產狀態ヲ多クノ人ニ示スト云フコトハ人情トシテ欲セザルコトヲアリマス、斯カルコトヲ總テノ場合ニ於テ法律が強制スルト云フコトハ宜シクナイ、サウ云フコトヲシナクテモ、大キノ家ニアレバ自家政協議員會ト云フヤウナモノガアッテ、其議ヲ經ルコトニナツテ居ルト思ヒマス、旁々以テ一般ノ能力者ニ付イテハ豫メ其議ヲ經ルコトヲ必要トセナンダノデアリマス、第六條乃至第八條ハ提出案ノ第六條乃至第八條ト同様デアリマス、唯少シバカリ文字ノ修正ガアルニ過ギマセヌ第九條ハ提出案ニナニ新設ノ規定テアリマス、宮内大臣ハ世襲財產ノ設定ノ許否ヲ決定スルニ付テ困難ヲ感ズル場合ガアルデアラウト思ヒマス、或ハ家ヲ維持スルニ必要ナル範圍ヲ超エテ居ナイカト云フ疑ヲ持ツコトモアリマセウ、或ハ其設定ニ依ツテ他人ニ損害ヲ及ボス虞ガアルト思フ場合モアラウト思ヒマス、ソレ故ニ世襲財產ノ設定ヲ認可スベカラズト認ムル場合ニハ、華族世襲財產審議會ニ諮詢セネハナラヌト云フ規定ヲ設クルコトニナツタノデアリマス、最初ハ總テノ場合ニ於テ諮詢セネハナラヌト云フ案ヲ立テ見タノデアリマスガ、能ク考ヘテ見マシタ結果ドウモソレハ宜シクナカラウ、唯今申上ゲヤウナ弊害ナキ限りハ、成ルベク一家ノ財產狀態ヲ多クノ人ニ知ラスコトヲ強制シナイガ宜シイ、審議會ニ議員ナドハ全ク親類デモナク家ニ關係ノナラヌト云フ規定ヲ設クルコトニナツタノデアリマセウ、必要モナニサウ云フ人達ニ家ノ財產狀態ヲ打明ケナケレバナラヌトシ云フコトハ、特ニ其必要ナキ限リハ宜シクナイコトデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ何カ他人ニ損害ヲ及ボストカ云フヤウナコトカラシテ世襲財產ノ設定ヲ認可スベカラズト認メタル場合ニ限シタノデアリマス、此外第二十條ニ於テ世襲財產ヲ廢止スル場合ニモ此審議會ノ諮詢ヲ經ネハナラヌト云フコトニナツテ居リマス、審議會ハ何人ヲ以テ組織スルカト云フニ、是モ宮内大臣が施行規則ニ於テ定ムルコトニナルノデアリマス、多分有尊者、當リマス、是モ何等ノ變更ガアリマセヌ、第十五條ハ提出案第十二條ニ當リマス、提宮内官及ヒ學識經驗アル者ト云フヤウナコトニナルノデアラウカト察シマス、第十條ハ提出案ニハ「世襲財產ハ家督相續人之ヲ相續ス」トアリマスガ、是ダケノコトナラバ明文ヲ出案ノ九條ノ通りアリマス、第十一條ハ曩ニ申上ゲマシタ如ク増加ノ場合ヲ一纏メニシテ規定シタルニ過ギマセス、第十二條乃至第十四條ハ原案第十條乃至第十二條ニ當リマス、是モ何等ノ變更ガアリマセヌ、第十五條ハ提出案第十二條ニ當リマス、提相續ノ開ヶタ場合ニハ、家督相續人が之ヲ相續スルト云フコトハ言ハズシテ明カナコトデアリマス、ソレダケナラバ削除シテ宜イ規程デアル、若シ何カ規定ヲ置クナラバ曩ノ委員會要セナイ當然ノコトデアルト思ヒマス、世襲財產ガアッテモ法人デハナイ、共有物デモナク、無主物デモナインテ全ク現戸主ノ所有財產デアリマス、ソレ故ニ其死亡等ニ依ツテ家督相  
二於テ奥田博士ノ述ベラレタ如ク、世襲財產ハ民法第千百二十條ニ定メタル家督相

續人ノ遺留分ニ算入セザルコト、又民法第十二十五條以下ニ定メタル相續ノ限定承認ノ場合ナドニモ、世襲財産ハ之ヲ除外シテ相續財産ヲ算定スルコトヲ明カニスルが宜シト考ヘタノデアリマス、世襲財産設定ノ目的ヲ一貫スルニハドウシテモ一般ノ相續財產ト別ニスベキデアラウト思ヒマス、而シテ此趣旨ヲ文字ニ現ハスニハ家督相續ノ特權ニ屬スト云フノガ民法第九百八十七條ナドノ文例デアリマス、餘り明瞭ナル文字デアリマセヌケレモ、其用例ニ倣ツタノデアリマス、第十八條ハ讓渡ヲ禁ズル規定デアリマスガ是ハ提出案第十四條第一項全ク同一デアリマス、第十七條ハ提出案第十四條二項ニ當リマス、此條ニ於テハ修正セラマシタ點ガ一ツアリマス、ソレハ地役權ノ設定又ハ變更ニハ宮内大臣ノ認可ヲ必要トセザルコトニ改マッタノデアリマス、此修正ノ理由ハ地役權ナルモノハサマデ土地ノ價格ヲ變更スルモノハナニ、既ニ十五年又ハ二十年ト云フガ如キ長期ノ賃貸スラモ主務大臣ノ認可ナクシテ出來ルトナツテ居ル以上ハ、地役權モ是ト同一ノ取扱ニスル方ガ權衡ヲ得タモノト考ヘタノデアリマス、第十八條ハ提出案第十五條ニ該當シマスガ、二三修正セラレタ點ガアリマス、此條ハ世襲財產ノ差押ヲ禁ズル規定デアリマスガ、提出案ニハ世襲財產ト其果實ハ之ヲ差押フルコトヲ得ズトナツテ居マスガ、世襲財產ノ法定果實ヲ取得スル權利ソノモノニ付テハ規定ガナイ、例ヘ條ニ依ツテ讓渡スコトヲ得ザル權利デアル故ニ、當然差押フルコトモ出來ナイト云フ見解バ世襲財產ヲ賃貸シタル場合ニ於テ將來ニ借賃ヲ請求スル權利ハ之ヲ差押フルコトガ出来ルト云フ解釋ニナルカト思ヒマス、提出案ノ趣意ハ固ヨリサウデナクシテ、其第十四ナツテ居マスガ、世襲財產ノ法定果實ヲ取得スル權利ソノモノニ付テハ規定ガナイ、例ヘニアツタ思ヒマス、併シソレハ甚ダムヅカシイ、少ナクモ疑ハシト考ヘタ場所ノ如クニ讓渡ノ場合ト、差押ノ場合ト書別ケテ、第十八條ニ明カニ世襲財產ト其果實ニ付テノミ規定シテアリマス故ニ、其以外ノ財產ハ差押フルコトガ出來ルト云フガ寧ロ至當ノ解釋デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ世襲財產ト云フ文字ノ下ニ及第十六條ニアツタ思ヒマス、併シソレハ甚ダムヅカシイ、少ナクモ疑ハシト考ヘタ場所ノ如クニ讓渡ノ場合ト、差押ノ場合ト書別ケテ、第十八條ニ明カニ世襲財產ト其果實ニ付テノミ規定シテアリマス故ニ、其以外ノ財產ハ差押フルコトガ出來ルト云フガ寧ロ至當ノ解釋デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ本來世襲會ニ於テ岡野博士が述ベラマシタ如ク苟モ不法行為ニ依フテ他人ニ損害ヲ加ヘタ場合ニ、縱令世襲財產ニモセヨ財產ヲ有シナガラ、是ヲ賠償シナクテモ宜イト云フヤウナ責任ヲ没却シタルコトヲ法律ニ認ムルト云フコトハ如何ニモ穩當デナイ、ソレ故ニ本來世襲財產ニ關スル債務デハナイケレドモ、此除外例ヲ設クルコトニ致シタノデアリマス、第三ノ修正ハ世襲財產ノ收益ニアリマスガ、現行法ニ依レバ其三分ノ一マテハ差押フルコトヲ許シテアルニ、本回ノ提出案ニ依レバ果實ト他ノ財產ト混同セザル間ハ、其全部ニ對シテ差押ヲ許サザルコトナツテ居マス、其理由ハ三分ノ一ト云フ如キ限度ヲ明カニスルコトハ實際困難デアル、且ツ其點が分々タシテモソレニ申出テノアツタ債權額ヲ割當アルト云フコトハ甚ダ煩ハシイコトデアル、三分ノ一ヲ超エタ、超エナイト云フコトニナルノハ如何ニモ穩デナイト考ヘマシテ、此點ハ寧ロ現行法ニ歸ツハ一層ノ困難デアルト云フ理由ニ歸著ベルト思ヒマス、成ルホド實際ノ始末ハサウシタ分産ト別ニスベキデアラウト思ヒマス、併シ今日マテ現行法ニ於テ債權者ニ與ヘアツタ權利ヲ、今後與ナイト云フコトニナルノハ如何ニモ穩デナイト考ヘマシテ、此點ハ寧ロ現行法ニ歸ツテ提出案ヲ修正シタ譯デアリマス、此所ニ於テ提出案第十六條ヲ削除シタコトヲ一言

致シマス、此條ハ不動産ニ付テハ豫メ其管理方法ヲ定メテ宮内大臣ノ承認ヲ受クベシト云フ規定デアリマス、併シソレマデニスル必要ハドウモ無イト考ヘマス、若シサウ云フ必  
要が起ツタ場合ニハ第二十二條第二項ニ依ツテ「宮内大臣ハ世襲財産ノ管理ニ付必  
要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」ト云フ、此規定ニ依ツテ實際ニ不便ナキコトヲ得ルノデアル、  
總テノ場合ニ通シテ初メヨリ管理方法ヲ定メテ承認ヲ受ケナラヌト云フコトハ、如何  
ニモ大袈裟ニ過ギテ是ダケノ必要ハ無イト考ヘタノデアリマス、修正案第十九條ハ提出  
案第十七條ニ當リマス、是ハ世襲財産廢止ノ規定デアリマス、提出案ノ主眼トスルモノ  
ハ此規定ニアルト思ヒマス、本條ニ付イテモ一二二ノ修正ヲスルコトヲナリマシタ、先ツ世襲  
財產ヲ廢止スル場合ハツアリマス、ソレハ他ノ世襲財產ヲ以テ是ニ換ヘムトスル場合  
ト、今一ツハ提出案ニ所謂已ムコトヲ得ザル事由アル場合デアリマス、而シテ原案ニ依レ  
バ何レノ場合ニ於テモ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得トナツテ居マス、修正案ニ於テハ  
此一ツノ場合ヲ分ケマシテ、先ツ其最モ適用多キ場合ヲ第一項トシタノデアリマス、ソレ  
ハ即チ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ト云フコトニ付テ  
ハ、委員會ニ於テモ、初メヨリ種々ノ議論ガアツタノデアリマス、最モ實際ニ生ジ易イト思  
ハレル場合例ヘバ世襲財產ノ一部ヲ解除スレバ、債權者モ納得シテ整理ガ付キ、家ノ  
體面ヲ保ツコトガ出來ルト云フヤウナ場合デアラウト思ヒマス、其範圍ハ極メテ猶クナクテ  
ハナラヌノデアリマスガ、サレバトテ具體的ニ其場合ヲ指定スルコトモ出來ナイノテ已ムヲ  
得ズ、已ムコトヲ得ザル事由アル場合ト云フヤウナ言葉ヲ使フコトニナツノデアリマス、是  
ハ何ト書イテモ大同小異デアリマスルガ、重大ナル事由アルトキニ限リト云ウタ方ガ、何程  
カ重ク聞ヘル、濫用ノ防ギトシテ宜シイカト考ヘタノデアリマス、此言葉ハ「皇室財產令ニ  
於テモ、世傳御料ニ付テモ用井テアル言葉デアリマス、次ニ此場合ニハ、全部ノ廢止ヲ  
許サスシテ一部ニ限ツタノデアリマス、其理由ハ、若シ初メヨリ全部デモ廢止スルコトが出  
來ルト致シマストキニハ、或ハ濫用ノ弊ガ生ズルカモ知レヌ、例ヘバ巨額ノ負債アル場合ニ  
ハ、債權者ノ方モ強ク出テ、一舉ニ世襲財產ヲ無クスルヤウナコトガ生ズルカモ知レヌ、  
ソレ故ニ先ツ一部トシテ置イタ方ガ、家ノ維持ヲ圖ル策トシテ穩當デアラウト云フ考ニ出  
デタノデアリマス、第二ハ交換ノ場合デアリマスガ、原案ニハ確實有利ナル世襲財產ニ換  
フル爲トアリマス、此確實有利ト云フ文字ハ、無用デアラウト考ヘマシテ削除イタシマシ  
タ、ドウ云フ財產が果シテ確實有利アルカ、其標準ガ明カデナイ、結局宮内大臣ニ於  
テ、其財產が世襲財產トナルニ適當ナルヤ否ヤヲ調査シテ許否ヲ決スルノデアル、ソレ故  
ニ特ニ斯ル條件ヲ法律ニ定ムル必要ハナイト思ヒマス、第二項ハ設定ニ關スル條文ヲ、  
廢止ノ場合ニ准用スル規定デアリマス、是モ原案トハ少シク其内容が變ツタノデアリマス、  
先ツ第二條ニ準用ヲ止メマシテ、即チ遺言書ヲ以テ廢止スルコトヲ認メル必要ハナイト考  
ヘタノデアリマス、修正案第二十條ハ新ニ加ハッタ規定デアリマス、即チ一旦設定シタ  
ル世襲財產ヲ廢止スルコトハ重大ナルコトデアル、故ニ華族世襲財產審議會ニ宮内大  
臣ハ諮詢セネバナラヌコトニ修正イタシタノデアリマス、第二十一條ハ交換ノ爲ニ廢止スル  
場合ノ規定デアリマス、提出案第十八條ニ當リマス、此場合ニ於テ其代リトナル世襲

財產ノ設定ハ、一年以内ニ其手續ヲナスベキコトニナツテ居マシタガ、此一年ト云フ期間  
ハ餘り長キニ過グルト認メマシタガ故ニ、六箇月ト改マリマシタ、ソレカラ原案ノ第三項ハ、  
修正案第五條ニ於テ無能力者ノ爲ニ世襲財產ヲ設定スル途ヲ開クコトナツタ爲ニ、  
自然不必要トナリマシタ、ソレ故ニ是ハ削除イタシタノデアリマス、第二十二條乃至第  
二十五條ハ、提出案第十九條乃至第二十一條ニ當ルノデアリマスガ、實質上ノ修正  
トシテハ第二十四條ガ加ハツタノミテアリマス、是ハ交換ノ場合、其他租稅ノ滞納處分ノ  
爲ニ、世襲財產が處分サレル、金錢其他ノ財產ニ代ツタ場合ニ、世襲財產設定又ハ補  
充ノ實行ヲ確實ニスル爲ニ、管理人ヲ置クコトニナツテ居リマスガ、將來ニ於テハ其管理  
人ノ權限ヲ擴張イタシマシテ、管理財產ニ付キ、遲滯ナク世襲財產設定ノ手續ヲナシ  
ムコトニシタイト云フノデアリマス、是ハサウ致サナクテハ其金錢ハ無クナルカモ知レヌ、且  
ツイツマデモ始末ガ付カヌモノトナル虞ガアル、故ニ此一條ヲ設クルコトニナツタノアリマ  
ス、其以外ニハ唯少シク文字ガ改ツタノト、前ニ加ヘラレタ修正ノ結果ニ過ギマセヌ、第  
二十六條ハ原案ニ第二十二條ニ當リマス、提出案ニ依レハ世襲財產ハ何レノ時ヨリ  
其效力ヲ失フノデアルカ明カデナイ、是ハ失爵又ハ襲爵者ナキコトガ確定シタル時ヨリ其  
執行ノ效力ヲ失ヒ、其執行ノ效果ヲ生ズルニ非ズシテ、其原因ノ發生シタル時トスル方  
ガ相當アル、解釋ハツニ分カレルノデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ其字句ヲ明カニ示ス  
コトニ修正サレタノデアリマス、第二十七條乃至第三十三條ハ提出案ノ第二十二條  
乃至第一十八條ト相異ナルコトハアリマセス、唯僅カ文字ノ修正ガ加ハツタニ過ギマセ  
ヌ、附則ニ於テモ何等實質上ノ變更ハアリマセス、唯文字ノ整理ガ加ハツタダケノコトデア  
リマス、小委員會ニ於ケル修正ノ理由ハ大略以上申上ゲマシタ通リデアリマス、我ニニ  
於テモ確タル經驗ヲ有シタト云フ所モアリマスガ、マダソレマデノ信念ヲ有セザル箇所モア  
リマスル、ソレ故ニ皆サンニ於カレマシテモ十分ニ御審議下サレマスルコトヲ切ニ御願ヒ致  
シマス

○子爵平田東助君 今回此修正ヲ御託シ致シマシテ、連日御審議下サレマシタ結果  
ニ付キマシテ、唯今御説明ヲ承ハリマシタ、大體ニ於テ誠ニ結構ニ考ヘマス、連日ノ御  
審議下サレマシタ御勞苦ニ對シマシテハ、私ナドハ謹シテ感謝スル所デアリマス、唯少シ  
ク了解イタシ兼スマスルヤウナ點ヲ一一御説明ヲ煩ハシタイト唯思フノデアリマス、此第  
一條ニ付テ唯今御説明ヲ承ハリマシテ、此家格ヲ維持スルニ必要ナル範  
圍内ニ於テ云フコトヲ御定メニナリマスルト云フコトハ、誠ニ御尤ナ至當ノ事ト考ヘマ  
スルガ、サテ御説明中ニモ最小限度ヲ定メルト云フコトハ、別ニ其必要ハナイヤウニ思フ  
ノテ、又敢テ害モ無イト思フカラ、故ニ最小限度ハ定メナカツト云フヤウナ御説明ヲ承  
ハリマシタガ、如何ニモ害ハ無イカトモ思フヤウデゴザイマス、併ナガラ其家格ヲ維持スル  
ニ必要ナル範圍内ト申ストキニ於テハ、最小限度ハ無論ノコトデゴザイマスルガ、餘リニ  
少ナキコトニナリマシテハ其意義ニ於テドンナモノデアリマセウカ、家格ヲ維持スルニ必要  
ナリト云フ文字ヨリシテ、殊ニ申スノデハゴザイマセヌガ、此文字ノ意義ヲ唯單ニ拜見イ  
タシマシタ所デハ、斯様ナ感シヲ起スノデアリマス、ソレテ是ハ最小限度ハ如何ニモ無害  
デハゴザイマセウケレドモ、又餘リニ少額ノモノヲ殊ニ世襲財產トスル必要モ亦ナイカトモ  
思フ心持モ致スノデゴザイマスルガ、是等ハ如何ナモノデゴザイマセウカ、唯是ハ御説明ヲ

煩ハシタノトコトノ御説明ニ依リマシテ、成ルベク斯様ナ家政ノ事、財産ノ状態ナドト云フコトニ、餘リニ他人ニ知ラセルト云フコトハ避ケル方ガ宜カラウト云フ御趣意テアッテ、設定ノ場合ナドハ審議會ニ掛ケナイ方ガ宜カラウト云フ御趣意デアッタカト了解イタシタノアリマスガ、是モ誠ニ御尤モナ次第テ御趣意ハ能ク徹底イタシテ居リマス、併シ既ニ先キニ参リマシテ認可セヌ場合ニ於テハ審議會ノ議ニ付セラレ、又其外廢止ノ認可スベキヤ否ヤト云フコトヲ定ムル場合ニ於テモ亦審査會ニ諮詢セラルハヤウデアリマス、既ニ斯様ナ場合ニ於テ審議會ニ付セラルト云フコトニナリマスト云フ、其家格ヲ維持スルニ必要ト云フ範圍ニ於テモ亦宮内大臣自己ニ於テ之ヲ定ムルト云フコトハ事實ニ於テ隨分困難ナコトデハゴザイマスマイカ、如何ニモ其御用意ノ周到ナル點ニハ能ク了解イタシマシタケレドモ、或ハ是ノ點モ如何ナモノカト少シ疑團ノ點ヲ抱クヤウデアリマスルガ、其邊ニ付テ一應ノ御説明ヲ煩ハシタノアリマス、又序ニイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ項トシテアリマシテ、此殊ニ第一項ガ掲ゲラレテ居リマスガ、此第二項ノ或ハ家産ヲ傾クルノ憂アルト云フヤウナ場合ニ於テハ亦之ヲ準用セラルコトノ必要ハ或ハナキモノデゴザイマセウカ、或ハ第五條第一項ダケデ、是ハ足リルノデ、第二項ニハ必要ハナノイデゴザイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ取り敢ヘズ是レダケ御説明ヲ願ヒマス。

○富井政章君 尚ホ詳シイコトハ他ノ小委員諸君ヨリ御答イタサルデアリマセウガ、先ヅ簡單ニ唯今アノ一二三點ニ付テ私ノ所見ヲ申上ゲテ置キマス、此第一條ノ範圍内ニ於テ云フコトハドウ云フ風ニ讀メルカ存ジマセヌガ、我ニ考ハ最高限ノミヲ極メル趣意デアリマシテ、最低限マテハ意味シテ居ラヌノアリマス、最低限ノ方ハ自由ニシテ置ク、法律テ何等ノ強制ヲモ加ヘナイト云フ趣意デアリマス、成ホド餘リ少ナ過ギテ是バカシデハ家ヲ維持スルコトが出來ナイト云フヤウナ場合ニハ、宮内大臣ハ申請者ニ注意ヲ與ヘルデセウ、ソレテハ餘リ少イカラモウイツソ止シテハドウカ、ソレモ聽カナケレバ、而シテ宮内大臣ニ於テハドウモ許サナイ方ガ宜イト考ヘマシタ時ハ、審議會ノ議ヲ經テ認可セナイト云フコトニナルノアリマスガ、最低限度ヲ極メルト云フ、立法例モナイデハアリマセヌ、普魯西ノ議會ニ提出サレテ居リマス世襲財產法ノ草案ニ極メナイ方ガ寧ロ穩カデアラウ、サウシテ又少ナ過ギルト云フヤウナ考ヲ起シタノアリマス、外ニ例ハ殆ドナイヤウデアリマス、ソレカラ第二ノ點ハ是ハ我ニ於テモ大イニ考ヘマシタノアリマシテ、認可スベカラズト認メタル場合ニミ審議會ニ詰ルト云フコトハ殆ド諮詢スル場合ハナクナッテ、實際有名無實ニナリハスマイカト云フヤウナ考ヲ起シタノアリマス、併シドウモ是ハ一得一失デアリマシテ、唯今御述ベニナリマシタ通り一家ノ財產狀態ヲ親族デモ何デモナイ審議官ト云フヤウナ大勢ノ人ニ打明ケテ、曝シテシマフト云フコトハドウモ面白クナイコトデアル、何カ權利ヲ主張スル者ガアリドウモ是ハ世襲財產トスルノハ宜シクナイ、不當ニ損害ヲ蒙ル者ガアルト思ハレルヤウナ場合ニ限ラタモノデ、サウ云フ趣意デアリマス、併シ此廢止

ノ場合ハ一旦世襲財產ヲ設定シテ、ソレヲ廢止シヤウト云フ事柄ソレ自身ガ重大ナコトデアリマスカラ、廢止スルニシテモセナニシテモ其許否ヲ決定スルト云フコトが重大ナコトデアリマスルカラ、是ハ宮内大臣ガ廢止ヲ許スベシト云フ場合ト、廢止ヲ許スベカラズト認メタ場合トハ審議會ノ議ニ掛ケルト云フコトニ致シテ見タノアリマス、サウ云フ點ハイタシテ居リマス、併シ既ニ先キニ参リマシテ認可セヌ場合ニ於テハ審議會ノ議ニ付セラレ、又其外廢止ノ認可スベキヤ否ヤト云フコトヲ定ムル場合ニ於テモ亦審査會ニ諮詢セラルハヤウデアリマス、既ニ斯様ナ場合ニ於テ審議會ニ付セラルト云フコトニナリマスト云フ、其家格ヲ維持スルニ必要ト云フ範圍ニ於テモ亦宮内大臣自己ニ於テ之ヲ定ムルト云フコトハ事實ニ於テ隨分困難ナコトデハゴザイマスマイカ、如何ニモ其御用意ノ周到ナル點ニハ能ク了解イタシマシタケレドモ、或ハ是ノ點モ如何ナモノカト少シ疑團ノ點ヲ抱クヤウデアリマスルガ、其邊ニ付テ一應ノ御説明ヲ煩ハシタノアリマス、又序ニイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ項トシテアリマシテ、此殊ニ第一項ガ掲ゲラレテ居リマスガ、此第二項ノ或ハ家産ヲ傾クルノ憂アルト云フヤウナ場合ニ於テハ亦之ヲ準用セラルコトノ必要ハ或ハナキモノデゴザイマセウカ、或ハ第五條第一項ダケデ、是ハ足リルノデ、第二項ニハ必要ハナノイデゴザイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ取り敢ヘズ是レダケ御説明ヲ願ヒマス。

○奥田義人君 本案ニ付キマシテハ詳細ニ富井博士ヨリ唯今御説明がアリマシタノデ、皆サンニ於カセラレテモ大體御承知ニ相成タコトト考ヘマスルノアリマス、然ルニ爾後少シ氣附イタ點モアリマスルシ、又此席ニ参リマシテカラ平田子爵ノ御質問モアリ、其外桑田委員ヨリノ御質問ノアリマシタ點モアリマスルノデ、彼是以テ皆サンノ御参考マデニソレ等ノ點ヲ申述ベテ見タイト考ヘマス、今ノ平田子爵ノ御質問ノ中ニ第一條ノ此價格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テト云フコトノ意味ニ付テ御疑惑がアリマス、之ニ對シテハ富井博士ヨリ御説明ニナリマシタノアリマスガ、是ハ御承知ノ通リニ原案ニハスノ如キモノハアリマセナンダノアリマス、然ルニ此委員會ヲ初二開カレマシタ當時ニ、委員ノ御方ヨリ此最高限ニ付テ何等カ此制限ノ意味ヲ含マシタコトヲ茲ニ現ハシテ置クノ必要ガアルコトアラウト云フコトヨリ致シマシテ、此家格ヲ維持スルニ必要ナルヲ與ヘルデセウ、ソレテハ餘リ少イカラモウイツソ止シテハドウカ、ソレモ聽カナケレバ、而シテ宮内大臣ニ於テハドウモ許サナイ方ガ宜イト考ヘマシタ時ハ、審議會ノ議ヲ經テ認可セナイト云フコトニナルノアリマスガ、最低限度ヲ極メルト云フ、立法例モナイデハアリマセヌアリマセヌ故ニ五百圓以上ノ収益トカ云フヤウナコトヲ法律ニ極メナイ方ガ寧ロ穩カデアラウ、サウシテ又少ナ過ギルト云フヤウナ考ヲ起シタノアリマス、外ニ例ハ殆ドナイヤウデアリマス、ソレカラ第二ノ點ハ是ハ我ニ於テモ大イニ考ヘマシタ通リ一家ノ財產狀態ヲ親族デモ何デモナイ審議官ト云フヤウナ大勢ノ人ニ打明ケテ、曝シテシマフト云フコトハドウモ面白クナイコトデアル、何カ權利ヲ主張スル者ガアリドウモ是ハ世襲財產トスルノハ宜シクナイ、不當ニ損害ヲ蒙ル者ガアルト思ハレルヤウナ場合ニ限ラタモノデ、サウ云フ趣意デアリマス、併シ此廢止

ノ場合ハ一旦世襲財產ヲ設定シテ、ソレヲ廢止シヤウト云フ事柄ソレ自身ガ重大ナコトデアリマスカラ、廢止スルニシテモセナニシテモ其許否ヲ決定スルト云フコトが重大ナコトデアリマスルカラ、是ハ宮内大臣ガ廢止ヲ許スベシト云フ場合ト、廢止ヲ許スベカラズト認メタ場合トハ審議會ノ議ニ掛ケルト云フコトニ致シテ見タノアリマス、サウ云フ點ハイタシテ居リマス、併シ既ニ先キニ参リマシテ認可セヌ場合ニ於テハ審議會ノ議ニ付セラレ、又其外廢止ノ認可スベキヤ否ヤト云フコトヲ定ムル場合ニ於テモ亦審査會ニ諮詢セラルハヤウデアリマス、既ニ斯様ナ場合ニ於テ審議會ニ付セラルト云フコトニナリマスト云フ、其家格ヲ維持スルニ必要ト云フ範圍ニ於テモ亦宮内大臣自己ニ於テ之ヲ定ムルト云フコトハ事實ニ於テ隨分困難ナコトデハゴザイマスマイカ、如何ニモ其御用意ノ周到ナル點ニハ能ク了解イタシマシタケレドモ、或ハ是ノ點モ如何ナモノカト少シ疑團ノ點ヲ抱クヤウデアリマスルガ、其邊ニ付テ一應ノ御説明ヲ煩ハシタノアリマス、又序ニイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ項トシテアリマシテ、此殊ニ第一項ガ掲ゲラレテ居リマスガ、此第二項ノ或ハ家産ヲ傾クルノ憂アルト云フヤウナ場合ニ於テハ亦之ヲ準用セラルコトノ必要ハ或ハナキモノデゴザイマセウカ、或ハ第五條第一項ダケデ、是ハ足リルノデ、第二項ニハ必要ハナノイデゴザイマセウカ、是モ少シク了解シ兼ネル所ガアリマスルノデ、是モ御説明ヲ煩ハシマス、先ヅ取り敢ヘズ是レダケ御説明ヲ願ヒマス。

○富井政章君 尚ホ詳シイコトハ他ノ小委員諸君ヨリ御答イタサルデアリマセウガ、先ヅ簡單ニ唯今アノ一二三點ニ付テ私ノ所見ヲ申上ゲテ置キマス、此第一條ノ範圍内ニ於テ云フコトハドウ云フ風ニ讀メルカ存ジマセヌガ、我ニ考ハ最高限ノミヲ極メル趣意デアリマシテ、最低限マテハ意味シテ居ラヌノアリマス、最低限ノ方ハ自由ニシテ置ク、法律テ何等ノ強制ヲモ加ヘナイト云フ趣意デアリマス、成ホド餘リ少ナ過ギテ是バカシデハ家ヲ維持スルコトが出來ナイト云フヤウナ場合ニハ、宮内大臣ハ申請者ニ注意ヲ與ヘルデセウ、ソレテハ餘リ少イカラモウイツソ止シテハドウカ、ソレモ聽カナケレバ、而シテ宮内大臣ニ於テハドウモ許サナイ方ガ宜イト考ヘマシタ時ハ、審議會ノ議ヲ經テ認可セナイト云フコトニナルノアリマスガ、最低限度ヲ極メルト云フ、立法例モナイデハアリマセヌ、普魯西ノ議會ニ提出サレテ居リマス世襲財產法ノ草案ニ極メナイ方ガ寧ロ穩カデアラウ、サウシテ又少ナ過ギルト云フヤウナ考ヲ起シタノアリマス、外ニ例ハ殆ドナイヤウデアリマス、ソレカラ第二ノ點ハ是ハ我ニ於テモ大イニ考ヘマシタ通リ一家ノ財產狀態ヲ親族デモ何デモナイ審議官ト云フヤウナ大勢ノ人ニ打明ケテ、曝シテシマフト云フコトハドウモ面白クナイコトデアル、何カ權利ヲ主張スル者ガアリドウモ是ハ世襲財產トスルノハ宜シクナイ、不當ニ損害ヲ蒙ル者ガアルト思ハレルヤウナ場合ニ限ラタモノデ、サウ云フ趣意デアリマス、併シ此廢止

ニ致方ガナイト小委員ニ於テハ考ヘタノデアリマス、ソレカラ第四條ノ一項ノコトニ付キマシテ先刻桑田委員ヨリ御注意ガアリマシタ、此第一項ハドウモ削除シタ方ガ宜カラウ、ト云フノハ設定ヲ希望セラレル所ノ有爵者ガ自己ノ財産状態ヲ明ラサマニ示スト云フヤウナコトハ好マヌ事情モアルカラシテ寧ロ是ハ削除シテシマシテ、サウシテ第六條ノ一項ノ適用ヲシサヘスレバ、ソレデ差支ナカラウ、トウデアラウカト云フコトノ御相談ガアリマシタノデアリマス、然ルニ是ハ第一條ニ此家格ヲ維持スルニ必要ナル範囲ニ於テト云フ言葉ヲ入レマシタモノデアリマスカラ、之ニ基イテ宮内大臣ガ設定ヲ許スベキヤ否ヤト云フコトヲ判断ヲ致シマスルニ當ッテハ、ドウモ此總財產ノ概量ヲ知ルニ足ルベキ事項ガ附記シテアリマセスト云フト、其判斷ヲ下ス上ニ於テ甚グ困難デアラウ、然レドモ亦一方ニ於テハ餘り詳細ノコトヲ書出サセルト云フヤウナ事ニシテハ、是ハ實際ニ於テ其當事者ニ迷惑ヲ及ボスコトニナルカラ、眞ニ概量ダケヲ知ルニ足ル事項ダケヲ附記セシムルガ宜シイ、斯ウ云フ趣意デ茲ニ這入リマシタノデアリマス、所ガ既ニ第六條ノ二項ノ簡條ガアリマスルカラシテ、實際ノ適用上ニハ大シタ差支モナイコトデアルヤウニ考ハマスルカラシテ、私ノ意見デハ若シドウシテモ此總財產ノ概量ヲ初カラ書出スト云フヤウナコトガ、當事者ノ格別ノ迷惑ニナルト云フヤウナ譯デアリマスルナラバ、第一條ノ規定トハ聊カ釣合ハ付カヌヤウニハ考ヘマスルケレドモ、必ズシモ此第四條ノ一項ヲドウシテモ茲ニ置カナケレバナラヌト云フ程ノ必要モナイカ知ラヌト思ヒマス、若シ其必要ガアル時ニハ即チ第六條ノ二項ヲ適用シサヘスレバ宜シイ、斯ウ云フ事ニ相成ルダラウカト私ダケハ考ヘマスルカラ、御参考ノ爲ニ申上ゲテ置キマス、ソレカラ第五條ノ第二項ニ付キマシテ先刻富井博士ヨリノ御説明モアリマシタノデアリマスルガ、即チ之ヲ親族會トセズシテ、家政協議員會ト致シマシタ所以ハ富井博士ノ述ベラマシタル以外ニモ尙其理由ガアラウト思ヒマス、御承知ノ通り普通ノ親族會議デアリマスルト云フト、常ニ裁判所ノ干與ヲ要スルコトニナリマス、世襲財產ノ設定ニ關シマシテ、餘リ裁判所ノ干與ヲ要スルヤウニナルノハ穩カデナリ、家政協議員會デアリマスレバ、裁判所ニ何等ノ關係ナクシテ、宮内大臣ノ定メタ規定ニ基イテ設定スルコトガ出來得ルモノデアリマスカラシテ、斯ヤウニ致シテ置イタ方ガドウモ普通ノ親族會議ヨリモ適當デアラウト云フ趣意モアツカノヤウニ覺エテ居リマス、聊カ蛇足デアリマスケレドモ補足シテ置キマス、ソレカラトデ氣付キマシタ點ト云フノハ何デアルカト申シマスルト、第八條デアリマス、第八條ノ「前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者又ハ民事上ノ強制執行、假差押若クハ假處分ニ著手シタル者」斯ウアリマス此又ハ「以下デアリマス、「民事上ノ強制執行、假差押若クハ假處分ニ著手シタル者」ト原案ニハ斯ヤウニナツテ居リマスノデ、其儘是ハ茲ニ這入リテ居リマスケレドモ、隣席ノ岡野博士モ氣付カレマシタヤウデアリマスガ、必ズシモ民事上ノ強制執行、假差押若クハ假處分ニ著手シタル者ニ限ツテ申出ズル權利ヲ有タシメテ、其以外ノ債權者ヲ除外シテシマフト云フ必要ハナインミナラズ其以外ノ債權者ヲ保護スル上カラ云々デモ、是ダケニ限ルト云フコトハ不穩當デアルカ知ラヌト考ヘラマスルノデ、ソレデ或ハ是ハ「又ハ債權者」ト廣ク書キマシテ、サウシテ今ノ「民事上ノ強制執行、假差押若クハ假處分ニ著手シタル者」ト云フノ除イテシマフコトニナツテシマツラドウデアラウカ知ラヌト思フノデアリマス、ソレカラ次ノ第九條ハ先刻平田子爵ヨリ御質問ニ相成リマシタノデアリマス、是

ニ對シマシテ富井博士ヨリ詳細御答辯ニナリマシタ、初メ小委員會ニ於テハ富井博士が述ベラレマシタ如ク、世襲財產ノ設定ヲ認可スル場合デモ、之ヲ認可セザル場合デモ、何レノ場合タルヲ問ハズ、審議會ニ諮詢ヲスルヤウニ案ハ立テアリマシタ所ガ、其後宮内大臣ニ面會ヲ致シマシタ時ニ、アノ簡條ハ宮内大臣ニ於テ認可スル時ダケハ諮詢ヲシナイト宮内大臣ガ考ヘタ時ニ於テノミ諮詢スルコトニシテ貴ヒタイ、斯ウ云フ話ガアリマシタ、ソレニ基キマシテ相談ヲ致シマシタ所ガ、成ルホドドウモソレノ方が穩當デアルヤウテモ敢テ差支ナイコトデアラウカ知ラヌトスルコト、出来ルコトデアルナラバ、認可ヲシナイト宮内大臣ガ考ヘタ時ニ於テノミ諮詢スルコトニシテ貴ヒタイ、斯ウ云フ話ガアリマシタ、ソレニ基キマシテ相談ヲ致シマシタ所ガ、成ルホドドウモソレノ方が穩當デアルヤウテアル、斯ウ云フコトニシテスノ如ク改メルコトニナリマシタノデアリマスル、來歷ハ……然ルニ此箇條ニ付キマシテモ亦丁度隣席ノ岡野博士モ同様ノ疑ヲ持タレタヤウデアリマスガ、聊カ不十分デアルカノ如クニ考ヘラマスルノデ、其點モ申上ゲテ置キタイト思ソレハドウデアルカト申シマスルト、「世襲財產ノ設定ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ」ト單ニアリマス、例ヘバ不動產ナリ、動產ナリ、家寶ナリ、色々ノ種類ヲ舉ゲテ、サウシテ之ヲ世襲財產ニシタイト云フコトノ申請ガアリマシタ時ニ、此部分ハ認可シテモ宜シイケレドモ、コチラノ部分ハドウモ認可が出來ヌト云フヤウナコトモ必ズ生ジテ來ヤウト思フ、其場合ニ於テ或ハ實際カラ申シマスルト、當事者ニ宮内大臣カラシテ内諭シテ、サウシテ申請書ヲ改メサセルト云フヤウナコトモ出來ヌデハアリマスマイケレドモ、ソレガ出來得ル出来得ヌニ係ハリマセズ、一部分ハ認可シテ他ノ部分ヲ認可セヌト云フヤウナコトモ亦茲ニ明カニ致シテ置キマセスト云フト、ドウモ是ダケノ文章デハ其意味ガ明カニナラヌヤウニ考ヘラレマス、ソレ故ニ是ハ實際ノ取扱ヒガドウアラウトモ「世襲財產ノ設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ」ト改メタ方ガ宜イデハナイカト氣付キマシタノデ、此點ヲ御参考マニ申シテ置キマス、ソレカラ第十八條デアリマス、第十八條ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求ノ爲ニスルノ外民事上ノ強制執行ニ云々ト云フコトガアルノデアリマス、ソレテ此相談ヲ致シマシタ當時ニ於テ、富井博士ノ御提議デ、ドウモ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求ノ爲ニ之ヲ許スト云フコトデアルナラバ、權衡上カラ云々デモ、世襲財產ノ管理ニ因シテ生ジタ所ノ權利ノ爲ニモ、亦差押強制執行ヲ許スト云フコトニシナイト云フト、其當ヲ得ヌヤウデアルト云フコトノ御話ガアツタノデアリマス、彼は當時審議ヲ致シマシタケレドモ、マア餘り重キヲ置ク程ノコトデモアルマイト云フコトデ、其儘ニナリマシタ、併ナガラ熟考ヲ致シテ見マスルノニ、ドウモ此假令實際ニ於テハ重キヲ置クホドノコトデモナイカモ知ラヌガ、不法行爲ニ依ル損害賠償ノ請求權ノコトガ茲ニ這入リテ居リマス以上ハ、此權衡上管理ニ依リテ生ジタ權利ノコトモ入レテ置カヌト云フト、法律ノ體面トシテ甚ダ不穩當ノヤウニ考ヘラレマス、ソレデ隣席ノ岡野博士モ同意見ノヤウデアリマスガ、茲ハ斯様ニ直シタラドウデアラウカト思ヒマス、即チ「損害賠償ノ請求權及世襲財產ノ管理ニ因リテ生シタル權利ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外」トナリマシタ、如何デアラウカト考ヘラレマスコトデアリマス、ソレカラ今ノシテ置キタインハ、第十九條ノ此二項ノコトニ付キマシテハ平田子爵ヨリノ御質問ガアツテ、富井博士ヨリ御

答辯ニナリマシテ、是ハ御分ニナツタコト考ヘマスル、唯々此廢止ヲ一部ニ限リマシタ事柄デアリマス、當初小委員會デ協議致シマシタ時ニハ、ドウモ此世襲財產ヲ廢止スルノフ一部ダケニ限リテ廢止スルト云フコトヲ許シテ、全部ヲ許サストト云フコトハ可笑イ、已ムヲ得ヌ場合ガアル時ニハ全部ヲ許シテ差支ノナイコトデハナイカト云フヤウナ議論モアリマシテ、初メハ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得トアラテ、次ノ項ノ交換ノコトト一緒ニシテアツタヤウニ覺エテ居リマス、然ルニ後、委員ノ方ミヨリ段々御意見モアリマシタ、其結果トシテ遂ニ此普通ノ廢止ハ一部分ニ限ル、全部ノ廢止ハ許サヌ、交換ノ場合ダケハ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトが出來ル、斯ウ云フコトニシタイト云フ多數ノ御方ノ御意見デアツタヤウニアリマスノデ、斯様ニナツタノデアリマスケレドモ、段々尙ホ理窟ヲ考ヘテ見マスルト云フト、茲ニ重大ナル事由ガアルト云フコトが前提ニナツテ居ル、廢止シナケバナラヌト云フホドノ重大ナル事由ガアルノニ、全部ノ廢止ハ許サヌ一部ノミフ許スト云フコトハ、ドウモ理窟ノ上ニ於テ甚ダ不穩當ニ考ヘラレマス、ソレデ私ノ意見ト致シマスルガ、唯少シ理窟ガ立タメヤウニ考ヘマスカラ、御参考マニ自分ノ意見ヲ述ベテ置キマス、以上述ヘマシタ點が即チ他カラ御注意ヲ受ケマシテ、或ハ又私ナリ岡野博士ナリ氣付カレマシタ點デアリマスノデ、篤ト御勘考ヲ請ヒタイト思ヒマス

## ○委員長代理（子爵岡部長職君） 水野子爵ハ如何デゴザイマスカ

○子爵水野直君 アトデ宜シウゴザイマス

○岡野敬次郎君 唯今段々奥田博士ヨリ詳細ノ御説明ニナリマシタコトデアリマスカラ、私ヨリ重ネテ又蛇足ヲ加ヘル必要ハナイト考ヘマスガ、唯一二點私ハ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、ソレハ此第八條ノコトデアリマスレバ、強ヒテ是ハ主張ヲスル譯デハナノンデアリウカト云フ奥田博士ノ御意見ニ付キマシテハ私ハ全然御同意ヲ表シタラバドウデアラマス、此第八條ノ規定ニ依リマスルト云フト、「財產ニ關スル權利ヲ有スル者」ト云フノハ、先づ物權的ノ權利ヲ有スル者ノ指スノテ、「又ハ」以下ノ「民事上ノ強制執行」云々ニ至リマシテハ世襲財產ヲ除イタ特定財產ニ對シテ自己ノ權利ヲ主張スルト云フモノデアリマス、處が一般ノ債權者、即チ普通ノ債權者ト雖モ一度ビ宮内大臣ニ對シテ其權利アルコトノ申出ヲ矢張リ許シテ、宮内大臣ガ果シテ申請ノ儘設定ヲ認可スベキ認可スルヨリ外ハナイ、其世襲財產設定認可ノ爲ニ一般ノ債權者ニ迷惑ヲ及ボスト云フヤウナコトが必ズ起ラヌトモ限ラヌノデアリマスカラ、先づ宮内大臣ハ其申請ヲ認可スルモノデアルヤ、或ハ斯ノ如クニ債權者ガ澤山アル以上ハ、場合ニ依ツテハ申請ノ一部ハ穏當デアルト云フノデ、此八條ヲ修正シタラ宜カラウト云フ奥田君ノ意見ニ私ハ賛成スルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ曩ニ小委員會ノ際ニ於キマシテ、偶々世襲財產ノ事ヲ研究シテ居ル人ガ京都大學、並ニ東京大學ノ法科大學ノ教授ニアリマシテ、將ニ其意見見タイト云フ希望ヲ私ハ其當時述べテ置キマシタノデアリマス、間モナク雑誌が發行セラレ

マシテ、其雑誌ニ就イテ見マスルト云フト、多クノ意見ハ此小委員會ノ修正意見が採用サレテ居ルノデアリマスガ、中ミ誠ニ尤モノ注意デ、其注意ニ基イテ修正シタラバト心付イタ點モアルノデ、此八條ノ奥田博士ノ修正意見ハ即チ其ツデアリマス、私ハドウガサウアリタイト思フノデアリマス、是ニ付キマシテ幸聯スル所ノ第四條ノ二項ハ奥田博士ノ御意見デアリマスガ、元ト第四條ノ二項ト云フモノハ先刻奥田博士ヨリ説明セラレマシタト、段々委員ノ中ニ御心配ニ相成リマシタル通り、其有爵者ノ財產ハ、不動產ハドノ所カラ此修正ヲ加ヘマシテ、第四條ノ一項ヲ總財產ノ概況ヲ知ルニ足ルヘキ事項ト改メタノデアリマス、此總財產ノ概況ヲ知ルニ足ルヘキ事項ト云フコトハドウ云フコトヲヤウニ相成リマスノデ、ソレガ爲ニ財產ノ狀況ヲ人ニ知ラセルヤウナコトニナツテ、有爵者ハ甚ダ好マス所デアルト、斯ウ云フ御意見ガ段々出マシテ、誠ニ至當ノ意見デアルト云フ位アル、有價證券ハ幾ラアル、債務ハ幾ラアル、債權ハ幾ラアルト云フヤウニ悉ク列記スルト、段々委員ノ中ニ御心配ニ相成リマシタル通り、其有爵者ノ財產ハ、不動產ハドノ位アル、有價證券ハ幾ラアル、債務ハ幾ラアル、債權ハ幾ラアルト云フヤウニ悉ク列記スルヤウニ相成リマスノデ、ソレガ爲ニ財產ノ狀況ヲ人ニ知ラセルヤウナコトニナツテ、有爵者ニスル者ガアルカモ知レマセヌケレドモ、先づ大體ニ於キマシテハ謂ユル文字通リノ概況アリ、其他ノ有價證券モアッテ、ドレダケノ價格ノモノデアル、有價證券アリ、國債アリ、地方債書ケバ宜シタイト云フト、其細カイ事ニ至リマシテハ、或ハ委員ノ中ニ於テハ多少意見ヲ異ニスル者ガアルカモ知レマセヌケレドモ、先づ大體ニ於キマシテハ謂ユル文字通リノ概況アリ、其他ノ有價證券モアッテ、ドレダケノ價格ノモノデアル、有價證券アリ、國債アリ、地方債書カセん趣意デハアリヒヌノデ、唯大凡有爵者ノ財產ハドノ位アル、純財產ハドノ位アル、其他財產中ニ於テ世襲財產ガドノ位ニ當ルカト云フコトヲ知ルダケノ材料ニ遇ギナインデアリマスカラ、格別是ガ爲ニ有爵者ノ財產ノ狀況が人ニ知ラルト云フヤウナ虞ハ私ハナノイモノト思フノデアリマス、且サウ云フナンデアリマスカラシテ、此四條ノ二項アルガ爲ニ有爵者ガ痛ク迷惑ヲ感ゼラルト云フコトハナカラウト思フ、而シテ私ノ考ヘマスル所デハ六條ノ第二項ト云フモノハ、是ハ寧ロ例外ニナル場合デアリマシテ、成ルベク其六條ノ第二項ノ如キハ事實ニ於テハ適用ノナイコトヲ私ハ希望スルノデアリマス、六條ガアルカラシテ四條ノ二項ヲ削除シテモト云フヨリ、私ハ寧ロ第四條ノ二項ヲ此儘置キマシテ、事實ニ於テハ六條ノ第二項ハ餘り適用ノナイコトニ私ハシタイト思フノデアリマスカラ、敢テエライ此有爵者ノ財產ノ狀況が人ニ知ラル、ト云フコトノ迷惑ニナラナイトスル以上ハ私ハ第四條ノ第二項ハ此儘ニ存置シテ置キタイト云フ希望ヲ有ツテ居リマス、敢テ其點ニ付テ私ハ固執イタス譯デアリマスケレドモ、立案ノ主意ト云フモノハ私ノ考ヘマス所、此第四條ノ第二項ノ概況ニ依ツテ認可スルコトニシテ、ヨクノ場合デナケレバ六條ノ二項ハ適用シナイト云フコトニ致シタイト思ヒマス、ソレカラモウ一點ハ第九條ノ修正ノコト竝ニ第十八條ノ修正ノコトハ是ハ私ハ全然賛成ヲ表シタノデアリマス、ソレカラ十九條ノコトデアリマス、是ハ先刻奥田博士ヨリ説明セラレマシタ通リノ成行キデアリマシテ、此全部ノ廢止ト云フコトハ一度ビ定ツタノガ段々小委員ノ中ニ於テ御意見が出マシテ、遂ニ此一部ノ廢止ト云フコトニナツタノデアリマス、而シテ詰リ全部ノ廢止ト云フコトヲ認メナイト云フコトハ私ノ記憶イタシマス所、其御意見ノ趣意ト云フモノハ場

合ニ依テハ結局全部ノ廢止ニ至ルカモ知レヌケレドモ、併ナガラ一擧ニシテ世襲財産が全部廢止セラレテ仕舞フト云フコトハ甚ダ望マシクナイコトデアリマス、固ヨリ一部ト申シタ所デ五分モ一部ナリ、九分モ一部ナリ、而カモ重大ナル事由ノアル時ニ限テ廢止スルト云フコトデアリマスカラ、理窟ノ上テ申シマスト、一部ダケノ廢止ヲ認メテ全部ノ廢止ヲ認メナイト云フコトハ、餘り法律的ニ申シマスレバ穩當デナイ、又説明ニ困難ナルコトデアラウト私ハ理窟ノ上テハ考ヘルノデアリマスガ、斯クナツタ所以ハ要スルニ適用ノ上ニ於テ味ヒノアルモノデアル、詰リ一度ニ全部無クナツテ仕舞フト云フコトハ望マシクナイ、場合ニ依テハ今年一部又後ニナツテ一部ト云フコトニナツテモ是ハ已ムヲ得ナイケレドモ、一遍ニ全部無クナツテ仕舞フト云フコトハ餘り面白クナイト云フノガ修正者ノ其當時ノ修正意見ノ趣意デアツト思ヒマス、殊ニ此廢止ノコトニ付キマシテハ色ニノ委員外ノ方カラ承ル所ニ依リマシテモ、全然廢止ト云フ制度ハ宜シクナイカラ、廢止ト云フ制度ハ止メタラ宜カラウト云フ御意見ヲ承ルノデアリマス、又廢止ト云フコトヲ認メルニ付テモ成ルベク其廢止ト云フコトが輕ミシク出來ナイヤウニシテ貰ヒタイト云フ希望ノ方モ大分アルヤウニ私ハ承テ居ルノデアリマス、サウ云フヤウナ工合デアルノミナラズ、此廢止ノ申請ノアツタ場合ニ於キマシテモ宮内大臣ハドウモ一部ノ廢止ハ已ムヲ得ヌケレドモ全部ヲ廢スルト云フコトハイカヌト云フコトノ取捨モ隨分私ハ場合ニ依テハ困難デアルカモ知レヌト思ヒマスカラ、矢張り理窟ハ奥田博士ノ言ハレル如ク説明ニハ甚ダ困難ト思ヒマスケレモ、矢張り適用ノ上ニ於テモ一部ノ廢止ノ方ガ適切デハナカラウカ、サウスレバイツソ全部ノ廢止ト云フコトハ認メテ置カナイ方が味ヒガアリハシナイカト思ヒマス、甚ダ理窟上ノ説明ニハ困難デアリマスケレモ、此點ニ於テハ私ハ矢張リ十九條ノ一項ハ此儘ニ存置シテ置キタイト云フ希望ヲ有ツテ居ルノデアリマス

○委員長代理(子爵岡部長職君) 丁度モウ晝が過ギマシタカラ……  
○岡野敬次郎君 モウ一默簡單ナコトヲ申シテ置キタイ、ソレハ極メテ簡単ナコトデアリマスガ、三十二條ニ牽聯シマシテ、寧ロ十三條ノ方カラ申上ゲタ方ガ宜カラウト思ヒマス、十三條ニ付キマシテハ御覽ノ如ク登録國債ニ付キマシテハ國債登録簿ニ世襲財產タル旨ヲ登録スルコトニナツテ居リマス、ソレカラ有價證券ノ中ニ於キマシテ株券ト社債券ニ付テハ十二條ノ二項ニ株主名簿ニ世襲財產タル旨ヲ記入シ、社債原簿ニ世襲財產タルコトヲ記入スルコトニナツテ居リマス、所ガ無論其有價證券ハ必ズシモ株券、社債券ニ限リマセヌ、其他ノ有價證券ガアリマス、其他ノ有價證券ニ付テハドウデアルカト申シマスルト、法律ノ上ニ於テ國債ノ如クニ國債登録簿ヲ設ケヨト云フ譯ニナツテ居ルノデハナイ、株券社債券ノ如ク株主名簿、社債券ニアラズ、社債券ニアラザル他ノ有價證券ニ付テハ本案ノ上ニ於テドウナルカト云フト、唯十二條ノ一項ノ終リノ所ニ「有價證券ニ付テハ宮内大臣ハ之ニ世襲財產タル旨ヲ記入スヘシ」トナツテ居リマス、ソレデ詰リ記入ノ手續キダケデアリマシテ、登録ト云フコトヤ原簿ニ記入スルト云フ手續ハナイノデアリマス、ソレハ誠ニ已ムヲ得ナイコトト思フノデアリマス、ソレカラ二十條ニ付キマシテ「管理財産中登録國債

アルトキハ國債登録簿ニ管理財産タル旨ヲ登録シ「云々アリマス、是ハ私が申上ケルマデモナク登録國債ハ登録簿ニ登録ニ依テ權利ノ移動ヲ認メル譯ニナル、證券ハ無イノデアル、ソレデアリマスカラドウモ登録國債アルトキハ國債登録簿ニ登録シテ置キマセスト登録ダケデ權利ガ移動シマスカラ、ドウシテモ是ハ原簿ニ記入スルヨリ外仕方カナイノデアリマス、所ガ等シク原簿ニ登録記入ノ手續キヲ致シマシタ所ガ、株券社債券ハ三十條ノ適用ガナインデアリマス、ソレハドウ云フ譯アルカト云フ疑モアリマスノデ、ソレニ付テ私ハ一言イタシテ置キタノデアリマス、登録國債ハ先刻申上ケマス通り國債登録簿ダケノ登録テ權利ノ移動ハ定マルコトニナリマスガ、株券トカ社債トカ云フモノハ有價證券ト云フ形デ其證書ガアル、而シテ證書ニハ世襲財產タル旨ノ記入ガシテアル、而シテ此三十條ノ適用ニナリマス場合ガ管理人ガ選任セラレマシテ、而シテ管理人ハ其財產ヲ管理シテ居ル場合デアリマスカラ、株券ヤ社債券ノ如キ有價證券ガ其世襲財產中ニアリマシテ、而シテ管理人ガ之ヲ管理スルトキハ株券ヤ社債券ト云フモノハ、管理財產トシテ其管理人ノ手ニアルノデアリマスカラ、ソレデ株主名簿ヤ社債券名簿ニ管理財產トシテ登録スルトカ云フ必要ハ無カラウト云フコトデ、二十條ニハ唯登録國債ノコトヲ規定イタシマシテ、株券ヤ社債券ノコトハ無イノデアリマス、兎ニ角此案ノ趣意ハソコニアルノデ、多少御疑問ガアリマスカラ、序ヲ以テ一言イタシテ置キマス

○委員長代理(子爵岡部長職君) 最早此際休憩イタシマシテ、午後一時ヨリ始メス……

(午後ハ開會トナラス)

出席者左ノ如シ

副委員長

富井 政章君

委員

伯爵柳澤 保惠君

子爵平田 東助君

子爵岡部 長職君

子爵水野 直君

奥田 義人君

岡野敬次郎君

男爵田 健治郎君

男爵本多 政以君

桑田 熊藏君

政府委員

法制局長官 高橋 作衛君

法制局參事官 馬場 錫一君

司法省參政官 田川大吉郎君

大正五年二月九日印刷

大正五年二月十日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局